

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	22-318	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Preoperative alcohol interventions for elective surgical patients: Results from a randomized pilot trial. 待機手術患者に対する術前アルコール介入：無作為化パイロット試験の結果		
<b>執筆者</b>		
Fernandez AC, Chapman L, Ren TY, Baxley C, Hallway AK, Tang MJ, Waljee JF		
<b>掲載誌</b>		
Surgery. 2022 Dec;172(6):1673-1681. doi: 10.1016/j.surg.2022.09.012. Epub 2022 Oct 22.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
待機的手術、アルコール使用障害、断酒期間		36283843
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b> 高リスクのアルコール使用は一般的な手術リスク因子である。手術前後の数週間におけるアルコール使用の中止または減少は、手術の健康状態および転帰を改善する可能性がある。本研究の目的は、手術に関連して高リスクアルコール使用に対処する2つの介入の実施可能性と受容性を評価することである。</p> <p><b>方法：</b> 参加者は、米国中西部の学術的医療システムで待機的手術を受ける予定の患者であった。参加者の募集は電話とテキストで行った。参加者は、18～75歳で待機的手術が予定されており、アルコール使用障害同定テスト-消費ツールで5点以上の者を対象とした。参加者は、低強度の介入であるブリーフアドバイス（10分間の電話による心理教育+フィードバックセッション）、または高強度の介入であるヘルスコーチング（教育、フィードバック、動機づけ面接、目標設定を含む45分間のセッション2回）のいずれかに無作為に割り付けられた。ベースライン時と1ヵ月後、4ヵ月後のフォローアップ時に評価を行った。アルコールバイオマーカーは手術当日に採取された。</p> <p><b>結果：</b> 最終的な研究サンプルには、ブリーフアドバイスとヘルスコーチングの条件に無作為に割り付けられた参加者（n=51）が含まれた。いずれの条件の参加者も、介入は満足のいくものであり、個人的に適切であったと評価した。4ヵ月後の試験継続率は高かった（86.3%）。健康コーチング（n=1）と比較して、簡単な助言（n=6）では離脱率が有意に高かった。週平均アルコール使用量は、両条件ともベースラインから追跡調査までの間に50%～60%減少した。バイオマーカーは自己申告を裏付けた。</p> <p><b>結論：</b> この試験は介入の実施可能性と受容性を実証した。アルコール使用は予想された方向に変化した。次のステップとして、アルコール使用と手術合併症の減少における介入の有効性を検証するランダム化比較試験が挙げられる。</p>		